

「ドローンで大空へ」

株式会社 ドローントラベル 代表取締役 まなべ 間鍋 しょうこ 祥子



住所: 加古川市新神野5丁目2番33号
TEL: 079-439-9030
営業内容: 産業用ドローン活用

加古川でドローン（無人航空機）を使い空撮を行っているドローントラベルの間鍋祥子と申します。

まず初めに、ドローンとは、ニックネームで正式には、Unmanned・aerial・vehicleを略して（UAV）と言います。又飛行音がハチの羽音に聞こえることから別名「オスの働きバチ」とも呼ばれています。

そんなドローンとの出会いは、夫でした。夫がおもちゃ屋さんでトイ

ドローン（200g以下）を購入してきた事でした。さっそく家族で試してみたところ、ゲーム世代の子供は室内をいっぱい使い飛行させていたのに対して、私と夫はうまく飛行できませんでした。機体本体にカメラが取り付けられてあり、携帯と連動させ画面を見ながら飛行させます。直接機体を見ながらの飛行もできませんが、機体のカメラの映像を見ながらの操縦はとても難しく、室内のカーテンやテレビ、天井などありとあらゆる所に当たり、部品の一部が脱落したり、羽根が割れたりと散々な飛行となってしまいました。日々練習することで少しずつではありますが飛行させることが出来るようになりました。

思い通りには飛行できませんが、その面白さに興味を持ちました。屋外で飛ばしてみたくなり、家の敷地内での初飛行は室内と違い風の影響でドローンが不安定になりうまく飛行できません。どうしても外で飛ばし、上空からの景色を見たいと思うようになり、どのような機体だったら屋外で飛ばしても安定し飛行できるのかネットで検索すると、200g以上のドローンは数限りなくたくさん種類があることがわかりました。

また、飛行させるには、10時間以上の飛行実績が必要と併せて国土交通省に申請が必要だと知りました。どうし

ても外で飛ばしたかったので、家族も巻き込みドローン学校（民間資格）に通うことにしました。座学では、航空法、天気、機体の構造、点検方法を学び、教習車と同じように2台教習用・1台、生徒用・1台）の送信機を備えた訓練用のドローンで実技を学びました。練習を積むことで徐々にイメージ通りに操縦が出来るようになり、大空を鳥になったような気持ちになりました。卒業と同時に、マービック2プロ（DJI製）を購入し国土交通省に登録。野外での初フライトは、緊張で手が震えたのを覚えています。空撮できそうな場所をネットで検索し、許可を取って撮影しに行き、簡単ではありませんが、編集し家族で鑑賞会を開いています。今では、家族全員の予定が合えば、空撮を楽しんでいます。

ドローンで今後もたくさんの方の風景を撮影し記録として残していきたい、後世に伝えられるようにしたいです。



ドローンを操作する間鍋さん